

一 はじめに

本校におけるコンピュータの利用は、平成二年二月にコンピュータが導入されたことよって始まる。さらに、平成四年度・五年度と文部省・西郷村教育委員会の機器利用研究の指定を受け、研究はより充実したものとなった。本稿では、指定を受けた二年間に研究したことをまとめる。この成果がさまざまな機会に生かされると幸いである。

二 研究の内容

「学習の個別化を図り、生き生きと活動する生徒を育成するコンピュータの活用」を研究主題として、図1

図1 主題に迫るための構想

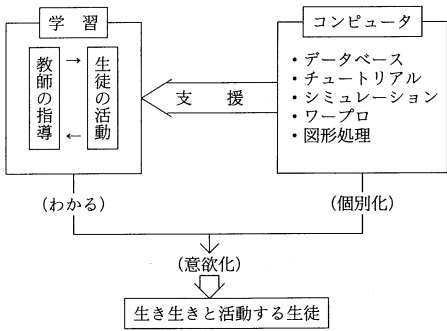


表1 各教科におけるコンピュータ活用計画(抜粋)

【国語】	1 年	【社会】	2 年
活用方針	ワープロ機能を生かした表現領域の指導 まとめるためのドリルとしての活用	データベース的活用 VTRの活用 TMOSを生徒の発表の手段としての活用 単元のまとめのドリルとしての活用	データベース的活用 VTRの活用 TMOSを生徒の発表の手段としての活用 単元のまとめのドリルとしての活用
活用方法	ワープロで文章を作る TMOSを利用して自作ソフトを作成する	TMOSを利用し、自作ソフトを作成する TMOSを発表の道具として利用する	TMOSを利用し、自作ソフトを作成する TMOSを発表の道具として利用する
活用計画	「文法 文の成分」 →まとめとしてのドリル	「世界の諸地域」	「世界の諸地域」
	一学期	一学期	一学期

にある構想をもとに、次の四点を中心に研究を進めてきた。

- 1 各教科の特質に応じたコンピュータの活用のあり方の明確化
- 2 コンピュータ活用場の指導過程への適切な位置づけ
- 3 学習の適切な評価のあり方の検討と実践
- 4 コンピュータ・リテラシーの育成のあり方の検討と実践

三 研究の概要

1 「教科におけるコンピュータ活用計画」の作成
この活用計画をもとにして授業

図2 理科学習指導案(抜粋)

段階	学習活動・内容	時間
課題把握	1. 既習事項の復習をおこなう。 2. 本時の学習課題を確認する。 「斜面の緩急や質量の違いによる斜面を下る運動の速さの変化は」	8
見直し	3. 学習課題を選択する 斜面による違い 斜面の緩急 質量による違い 質量の大小	7
課題	4. 実験をおこなうソフトを立ち上げる実験の準備をする 角度を変えながら実験をおこなう 質量を変えて実験をおこなう 繰り返し実験をし納得のいくデータをとる	30

を実践した。市販ソフトで対応できない場合には、授業に必要な自作ソフトの作成を行った。

- 2 コンピュータのより効果的な活用方法を明らかにするように努力
学習指導案についても検討を加えた。(図2学習指導案参照)

- 3 生徒を対象としたアンケート調査を実施し、意識の変容を調べるとともに、授業の中でワークシートを計画的に活用し、学習の定着を図った。また、必要に応じて、自己評価を取り入れ、生徒の実態把握に努めた。
- 4 授業の中でコンピュータを活用するためには、生徒がある程度コンピュータの操作に慣れていなければならない。そのため、「コンピ

表2 コンピュータ実技研修(抜粋)

平成5年度			平成6年度		
月日	学級	内 容	月日	学級	内 容
4/12	1年1組	コンピュータについて	4/11	1年1組	コンピュータについて
5/10	2年1組	図形 1	4/25	2年1組	図形 1
5/22	3年1組	図形 1	5/16	3年1組	表計算 1
6/14	1年1組	ワープロ 1	6/6	1年1組	ワープロ 1
7/3	2年1組	図形 2	6/25	2年1組	図形 2
9/6	3年1組	図形 2	8/27	3年1組	表計算 2
9/20	1年1組	ワープロ 2	9/12	1年1組	ワープロ 2
10/16	2年1組	図形 3	9/26	2年1組	図形 3
11/8	3年1組	図形 3	10/22	3年1組	表計算 3
11/22	1年1組	ワープロ 3	11/7	1年1組	ワープロ 3
12/6	3年1組	ソフト紹介	11/26	2年1組	図形 4
1/22	1年1組	図形 1			
2/14	2年1組	ソフト紹介			

ュータ活用の手引き」を作成し、学級活動の時間を利用して、コンピュータ・リテラシーの育成に努めた。

四 研究の成果と課題

また、教職員に対してもコンピュータ実技研修を行い、コンピュータ操作技術の向上と教材作成に必要な基礎的知識の養成を図った。

(1) 教職員について
「各教科におけるコンピュータ活用計画」の充実